

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月2日

協議会名： 相模原市地域交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
YM交通(株)	吉野・与瀬地区乗合タクシー 「ふれあい号」 営業区域：吉野・与瀬地区 運行日：月曜～金曜 運行時間帯：9時台～16時台 運賃：大人300円※割引あり	利用促進協議会を開催し、利用状況の実態説明と地域の需要把握を行い、利用促進活動の方向性の検討を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【実績/目標】 ・稼働率：60.1％／50％（達成） ・1便あたり利用者数：2.0人／1.5人（達成） ・年間利用者数：2,379人／2,341人（達成）	引き続き、利用促進協議会とともに、新規利用者の獲得に向けたPRや利用方法の周知等の利用促進活動を行っていく。 また、運行ダイヤ等の見直しなど、利便性の向上に向けた検討を進めていく。
富士急バス(株)	名倉循環線 系統：藤野駅～名倉～藤野駅 (8.9km、循環) 運行回数：平日7回/日、土曜4回/日 運賃：210～320円	地域（住民・利用者）が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 20,789人／24,900人（未達） 【分析】通学需要が主となっている中、沿線にある市立小学校の児童数が減少していることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	地域で公共交通を維持していくという当事者意識を持っていただけで、地域と連携した利用促進策の実施を検討する。 また、社会情勢等の変化を捉えた運行内容の見直しなど、利便性の向上に向けた検討を進めていく。
神奈川中央交通(株)	野05 系統：藤野駅～馬本・大鐘～奥牧野 (7.7km) 運行回数：平日2.5回/日、土休2回/日 運賃：210～350円	地域（住民・利用者）が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 7,722人／8,199人（未達） 【分析】従来、多くの観光客が利用している路線であるが、コロナ禍を経て、市内の観光入込客数は、1割程度減少している（R7.3末時点）であることに加え、当該路線の沿線（澤井、佐野川地区）人口も減少傾向にあることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
	野08 系統：藤野駅～上河原～和田 (5.6km) 運行回数：平日7.5回/日、土休8回/日 運賃：210～300円	地域（住民・利用者）が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 32,504人／43,395人（未達） 【分析】従来、多くの観光客が利用している路線であるが、コロナ禍を経て、市内の観光入込客数は、1割程度減少している（R7.3末時点）であることに加え、当該路線の沿線（澤井、佐野川地区）人口も減少傾向にあることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
	野11 系統：藤野駅～山口原～やまなみ温泉 (5.1km) 運行回数：平日5.5回/日、土休7.5回/日 運賃：210～270円	地域（住民・利用者）が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	計画に位置付けられた定量的な目標は達成できなかったものの、事業の効果として見込んでいた、「交通不便地域の解消」、「移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段の確保」等については、達成できた。 【実績/目標】 ・年間利用者数 20,572人／26,314人（未達） 【分析】終点近くにある温泉施設の改装が終了し、営業再開した（R5.8～）ことにより、利用者数は回復しているものの、コロナ禍を経て、市内の観光入込客数は、約1割程度減少している（R7.3末時点）であることに加え、当該路線の沿線（日連、牧野地区）人口も減少傾向にあることから、目標達成に至らなかったものと考えられる。	
	野12 系統：藤野駅～やまなみ温泉～奥牧野 (10.5km) 運行回数：平日7.5回/日、土休6回/日 運賃：210～350円	地域（住民・利用者）が主体的に関与する仕組みの構築に向け、利用促進協議会の発足準備を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【実績/目標】 ・年間利用者数 36,786人／31,400人（達成）	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進協議会による利用促進に関する取組の検討を継続的に実施していることは評価できる。 バスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月22日

協議会名:	小田原市生活交通ネットワーク協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
箱根登山バス株式会社	石名坂線 小田原駅～石名坂の区間を運行 ※平日のみ5回/日	令和7年度新規認定のため該当なし	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	計画に位置づけられた目標を達成した。 【年間利用者数】 目標:37,663人 実績:40,195人 分析:路線沿線の住民や就労支援施設への移動需要が主となっている中、地域内の人口減少が進んでいるため、利用者数の推移を注視していく必要がある。	地域の移動手段を確保するため、引き続き、路線の特性を踏まえたサービス水準の維持や利用促進を図るとともに、路線バスが運行していない日中の空白時間帯には、代替となる運行形態による移動支援策を実施する。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	地域との検討会における路線バスの利用啓発、地域主体の利用促進策等に取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。 導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名： 秦野市地域公共交通会議

評価対象事業: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
株式会社愛鶴	上地区乗合自動車 1 運行系統名：「湯の沢線」 渋沢駅北口～湯の沢終点（4.8km） 2 運行便数 渋沢駅北口発5便、湯の沢終点発11便 3 運賃 200円、250円、300円、小児100円、未就学児2人まで無料 ※平日のみ運行	前回の事業評価結果において 助言等をいただいた内容は次の とおり。 「①現在取り組んでいる需要喚 起策のほか、今後利用者となり うる住民等に対して新たな取組 を検討していただきたい。」 「②生活様式に合わせて利用方 法を解説する案内チラシを配布 するなど、住民にとって分かりや すい周知を行うことも検討してい ただきたい。」 上記の助言等を踏まえ、上地区 公共交通協議会では、地域住 民向けに実施した利用実態把 握のためのアンケート調査結果 等をもとに、新ダイヤ等の検討 を開始した。 また、上地区乗合自動車の状況 共有や利用促進等のため、定 期的に組回覧を実施し、周知を 図った。	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成で きていない点があった。 【乗合タクシー年間利用者数】 目標：45,611人（令和10年度） 実績：49,498人（令和6年度）…達成 【乗合タクシー地区数】 目標：4地区（令和10年度） 実績：4地区（令和6年度）…達成 【乗合タクシーの行政負担額】 目標：13,438千円（令和10年度） 実績：14,724千円（令和6年度）…未達成 【乗合タクシーの収支率（対運行経費）】 目標：35.6％（令和10年度） 実績：36.7％（令和6年度）…達成	上地区乗合自動車は、利用者 数の低迷や収支率の悪化が 課題となっているため、改善に 向けた新ダイヤ等を上地区公 共交通協議会にて決定し、令 和8年1月より運行を開始した。 今後は、新ダイヤ等の効果検 証に努め、上地区乗合自動車 の存続に向けて、引き続き協 議を行っていく。
	上地区乗合自動車 1 運行系統名：「みくるべ・八沢循環線」 渋沢駅北口～渋沢駅北口（15.5km：循環系統） 2 運行便数 4便（令和7年4月から3便） 3 運賃 200円、250円、300円、小児100円、未就学児2人まで無料 ※平日のみ運行				
	上地区乗合自動車 1 運行系統名：「八沢・みくるべ循環線」 渋沢駅北口～渋沢駅北口（15.4km：循環系統） 2 運行便数 5便 3 運賃 200円、250円、300円、小児100円、未就学児2人まで無料 ※平日のみ運行				
地方運輸局等 における 二次評価結果 （関東運輸局）	地域住民に向けアンケートにてニーズの把握の取組を継続的に実施していることは評価できる。 収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状 況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月26日

協議会名:	大磯町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
伊豆箱根交通株式会社	系統名:東ルート 西小磯東地区の一部地域 (乗降場所30箇所) と町内4箇所 (役場、郵便局、図書館、駅) 間を対象としたデマンド型タクシー 系統名:西ルート 西小磯東地区の一部地域 (乗降場所30箇所) と町内2箇所 (病院、スーパー) 間を対象としたデマンド型タクシー ¥500/回 予約時人数に応じた割引あり	前回の評価結果として、現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民に対して新たな取り組みを検討すること、住民にわかりやすい周知を行うこととあったため、対象地区に周知と併せた乗降場所についてのアンケート調査を行った。 アンケート結果を踏まえ、地区との協議により利用希望のあった箇所へ新たに乗降場所を3箇所設置すると共に、蓄積データに基づき使用されていない乗降場所を3箇所廃止した。	A 大磯町地域公共交通計画に基づき、公共交通空白地域であった赤坂台地区を含む西小磯の一部地域において、当該地域に最も適している乗り物として、デマンド型タクシー事業を取り入れている。 住民の利用頻度や乗降場所のデータを蓄積しており、継続的に利用がなされ、今年度についても昨年度と比べ稼働率が大きく上昇していることから地域の特性と住民の声に即した事業である。	B 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請で示した「稼働した便の1便当たりの輸送人数が1.5人以上」の目標に対し、令和7年は東ルート1.1人、西ルート1.1人であり目標を達成できなかった。 しかし、もう一つの目標である「全運行本数に対する実運行本数の稼働率東ルート30%西ルート10%」に対して、東ルート43%、西ルート12%であり稼働率については、目標を達成した。 地区への周知による効果があったものと推測される。	稼働率については、目標を達成しており、今後も上昇する見込みである。1便当たりの輸送人数は目標未達成となったが、データによる考察では、乗り合う利用者は固定されており、乗り合うことで料金が割り引かれるメリットは充分生かされている。 しかし、同時刻に偶然的に乗合い、利用されるケースは少ない傾向である。目標である1便当たりの輸送数1.5人以上については、本事業の実態に基づき見直す必要があるか検討する。 引き続き周知等の取組みとして車両へ取り付けるマグネットシートの更新などの取り組みを進める。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	前回の結果を踏まえアンケートを行い、ニーズの把握に関する取組を実施していることは評価できる。 デマンド交通の利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月23日

協議会名：二宮町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈川中央交通西株式会社 (令和7年4月1日より神奈川中央交通株式会社)	運行系統名:二宮町コミュニティバス (通称:にの♥バス) 運行区域:町内全域 運行日:月～金 (祝日・年末年始を除く) 運行時間帯:8時台～18時台 運賃:大人200円、小人100円 (その他手形の販売や割引制度有り)	「特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。」については、手形以外の利用者が増加しているため、特定少数の利用者だけでなく、全体的に利用者が増えているのではないかと分析した。 「生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。」については、「地域の通いの場」において「にの♥バス」を使った具体的なお試しコースの提案・無料券の配布をしたほか、中学生向けには通学に利用いただけるよう利用促進を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○コミバス1日あたりの平均利用者数 目標:135人 実績:125.5人 (前年:108.7人) ○コミバス割引手形・回数券の購入数 目標:470人/年 実績:287人/年 (前年:397人) ○地域間幹線系統バス1日あたりの平均利用者数 目標:84人/日 実績:66.2人/日 (前年:81.4人) ○外出に困難を感じている人の割合 目標:15.0% 実績:27.9% (前年:19.6%) ○公共交通に関する満足度 目標:3.0点/5点満点 実績:2.59点 (前年:2.63点) ○外出が週1回以下の高齢者割合 目標:10.0% 実績:— (R7年度、R10年度実施) ○町内の免許証返納者数 目標:160人/年 実績:104人/年 (前年:80人) 分析:目標には達していないものの、利用者数は順調に増加しており、利用促進策による新規利用や通学利用の増加、再編ルートが利用者に定着したことによる利用増等が要因と考えられる。 一方、公共交通への満足度、外出への困難を感じている人の割合、免許返納者等の指標は悪化もしくは横ばい傾向であり、特に高齢者等の交通弱者への施策の充実が求められていると考えられる。	・イベント、広報紙、SNS等の様々な機会を活用し、新規需要を拡大。 ・利便性向上のための割引制度や運行内容の改善。 ・町内の様々な利用者層や需要に対応できる施策の充実。 ・地域で公共交通を維持していくという当事者意識を持っていただけるよう、地域と連携した利用促進策の実施。
地方運輸局等における二次評価結果 (関東運輸局)	前回の結果を踏まえ具体的な利用コースや無料券の配布を行う等利用促進に関する取組を実施していることは評価できる。 コミュニティバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名:	中井町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈中タクシー株式会社	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域 (乗降ポイント 119箇所) 及び一部町外 (乗降 ポイント1箇所) を対象としたデ マンド型交通システム (区域運 行型)</p> <p>運行日:年末年始(12/29～1/3) を除く平日</p> <p>運行時間:7時～19時</p> <p>運賃: 町内 大人200円、小人100円 町外 大人400円、小人200円</p>	<p>前回の事業評価では、現在取 り組んでいる希望ポイント降車 サービス等の需要喚起策のほ か、今後利用者となりうる住民 等に対して新たな取組の検討 や、生活様式に合わせて利用 方法を解説する案内チラシを 配布するなど、住民にとって分 かりやすい周知を行うよう助言 があった。</p> <p>オンデマンドバスの乗降ポイン トや乗り方の他路線バス等の 町内交通網を掲載した「中井町 公共交通マップ」を作成し、町 内全戸に配布した。今後も広 報誌等の様々な媒体を活用し 周知の強化を図って行きたい。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられ た目標を達成できていない 点があった。</p> <p>目標:乗合率 35%以上 実績:乗合率 30.5% 分析:本町のオンデマンド 交通については、交通空白 地の解消や通院・買物需要 へは一定の効果がみられ た一方、乗合率は30%にと どまり、目標値には届かな かった。 利用者母数そのものの増 加を図るため、周知を強化 して利用促進を行ってい きたい。 また、中井町は自家用車依 存度が高いため、運転免許 返納をした高齢者への利用 支援も継続して行っていく。</p>	<p>現行の運行体制で、交通空白 地域の在住者や交通弱者等が 利用しやすい環境が一定程度 維持されているが、より効率 的な運行のためには乗り合い を増やすことが重要であり、人 の移動の目的地となる交通結 節点のような場所を造り出す 必要がある。 引き続き、路線バスを補完す るフィーダー的役割を担って いるオンデマンドバスの安定 的な運行を図るとともに、障 害や年齢などに関係なく、誰 もが利用しやすい交通環境を 構築していくことを目指す。</p>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>前回の結果を踏まえ公共交通マップを全戸に配布し、利用促進の取組を実施していることは評価できる。 導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p>				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名： 大井町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回 (又は類似事業) の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急モビリティ株式会社	<div>1.相和・金子循環 (往路①便) 運行日:月・火・水・金・土 (土曜は午前のみ) 運行回数:2回／日 ※R7.5より土曜の1回/日のみ 運賃:200円※割引あり</div> <div>2.相和・金子循環 (復路③便) 運行日:月・火・水・金・土 (土曜は午前のみ) 運行回数:2回／日 ※R7.5より土曜の1回/日のみ 運賃:200円※割引あり</div> <div>3.登下校ルート (2・3便) (3便のみR6.10.R7.2～R7.9) 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:2回／日 運賃:200円※割引あり</div> <div>4.登下校ルート (1便) 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:1回／日 運賃:200円※割引あり</div> <div>5.相和・金子循環 (往路1・3便) 運行日:月・火・水・金 運行回数:2回／日 ※R7.5より運行 運賃:200円※割引あり</div> <div>6.相和・金子循環 (復路2・4便) 運行日:月・火・水・金 運行回数:2回／日 ※R7.5より運行 運賃:200円※割引あり</div>	・広報や公共交通マップの配布・配架により町民へ運行状況や乗り方例等の周知を継続的に 行っている。 ・8月に意見交換会を実施し、 利用者及び今後利用する方から 意見を聴取し、町民がどのよう に利用しているのか、どのよう な利用を希望しているか確認 を行った。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【目標】 一般利用者数6,000人 小中学生利用者数4,000人 収支率8.7%の確保 【実績】 一般利用者数 6,440人 達成率 107.3% 小中学生利用者数 4,625 人 達成率 115.6% 収支率 6.6% 【評価】 ・利用者数は、一般利用者 と小中学生共に目標を達成 した。小中学生は少子化に よる影響か、昨年よりも利 用者数が減少している。 ・R7.5月より新たに実証実 験を開始し、運行経費が 2,775,780円増加したため、 運賃収入は昨年より56,900 円増加したが、収支として は昨年度 (7.3%) より減少し た。	・5月より開始した実証実験の 利用実績や意見交換会の結果 を踏まえ、今後の運行方法に ついて事業者等と調整を行う。 ・運行について高齢者や普段 利用しない方にわかりやすい 表示方法について検討を行 い、時刻表やマップの更新を行 う。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

広報等による周知や意見交換会にて、利用促進・ニーズの把握に関する取組を継続的に実施し、目標を達成されたことを評価する。
導入している交通によって市民 (町民、村民) の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和 8年 1月 16日

協議会名: 松田町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急モビリティ 株式会社	寄線 経由地:上茶屋 系統キロ程:往10.5km 復10.5 km 運行回数:11.5回/日	前回事業評価なし	A	事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 計画に位置付けられた目標 を達成した。 目標収支率:98% 目標年間輸送人員:61,213 人 実績収支率:225.42% 実績年間輸送人員:77,982 人 分析:コロナ禍後の観光需 要の回復が要因と考えられ る。	路線バス維持に向けた交通3 施策(乗合バス運行事業費補 助、通学バス定期券助成事 業、高齢者バス定期券助成事 業)を継続して引き続き路線バ スの利用促進を目指していく。
富士急モビリティ 株式会社	寄線 経由地:神山・長寿橋 系統キロ程:往17.8km 復17.8 km 運行回数:0.5回/日					
富士急モビリティ 株式会社	寄線 経由地:上茶屋・長寿橋 系統キロ程:往17.1km 復17.1 km 運行回数:1.5回/日					

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	通学バス定期券助成事業、高齢者バス定期券助成事業等、利用促進に関する取組を継続的に実施し、目標を達成されていることを評価する。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 山北町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富士急モビリティ(株)	1.東部循環 系統：向原～川村小学校入口(往4.0km) 運行回数：1回/日 運賃：大人は3kmまで100円、3km以上200円、小学生・中学生は距離にかかわらず、それぞれ50円、100円、乳幼児は無料 ※運賃は以下2～6も同様	※今回が初めての評価であるため該当なし	A	計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標利用者数は37,000人/年に対して、実績は40,467人/年、目標収支率は0.180に対して、実績は0.189であり、利用者数・収支率ともに目標達成に至った。	地域公共交通会議において運行の見直しについて検討した結果、利便性を高めるための系統の一部見直しや鉄道との接続性を高めるためダイヤ改正を行うとともに、利用者の少ない便を減便することとした。なお、見直しの実施時期は本年4月を予定している。
	2.東部循環 系統：山北駅～山北駅(8.5km循環) 運行回数：1回/日						
	3.西部循環(平山先回り) 系統：山北駅～山北駅(6.6km循環) 運行回数：3回/日						
	4.西部循環(岸先回り) 系統：山北駅～山北駅(6.6km循環) 運行回数：2回/日						
	5.南部循環東回り(向原先回り) 系統：山北駅～山北駅(10.9km循環) 運行回数：6回/日						
	6.南部循環西回り(平山先回り) 系統：山北駅～山北駅(10.9km循環) 運行回数：(平日)5回/日 (土休日) 6回/日						
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	運転者不足供給面の制約がある中、ダイヤの調整によって利便性を維持する取組がされていることは評価できる。 コミュニティバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 また、路線の再編にあたっては、民間路線バスとコミュニティバスの役割分担にも留意し、地域全体として最適なネットワークとなるよう取り組むことに期待したい。						

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名:	湯河原町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
湯河原タクシー（株）	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」温泉場エリア	リピーターの利用者が定着しているほか、町広報紙や自治会への回覧チラシ配布などの周知、さらには口コミなどの広がりにより、昨年度同様に利用者は増加傾向である。 本町の高齢化率は県内でも高く、自動車運転免許を持たない人が増加している傾向にあることから、ニーズに合ったサービスを提供できている。 また、利用者からの運行日拡充の要望を受け、令和6年4月から土曜日運行を開始し、一定数の利用があるため、効果を充分に感じ、利用を促進するものとなった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標数値】 乗車密度 1.5人/便以上 ※乗車密度＝利用者数/運行便数 【結果】 乗車密度 2.03人/便 【参考】 各系統の乗車密度 温泉場 1.58人/便 オレンジライン 2.39人/便 鍛冶屋 1.33人/便 福浦 1.42人/便	周知を継続的に行い、「ゆたぼん号」を必要とする方、今後必要となる方へ情報を届ける必要がある。 交通不便エリア、運行時間の拡充など利用者から要望を受けられることがあるので、今後も利用者アンケート、交通不便エリアへのアンケートおよび利用者説明会を開催し、現状把握を定期的に行う。
湯河原タクシー（株）	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」オレンジラインエリア				
湯河原タクシー（株）	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」鍛冶屋エリア				
湯河原タクシー（株）	予約型乗合い交通「ゆたぼん号」福浦エリア				
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	町広報紙への記事掲載や自治会への回覧配布に取り組み、乗車密度の目標を達成されたことを評価する。 生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				